

奈良市

ミーティングセンター きせき

株式会社リールステージ
代表取締役 中山久雄

奈良市の概要



- ・立地 奈良県の北部一帯を占める広域市
奈良盆地の北端に位置し、東部に大和高原、北は平城山と呼ばれた高地
- ・人口 352,818人（高齢化率31.2% 令和2年時点）
- ・観光名所 東大寺、興福寺、薬師寺、春日大社、平城宮跡等



奈良市の社会資源

要介護認定者 24,068名



地域包括支援センター 11箇所

図表2-3 本市の日常生活圏域

日常生活圏域	担当小学校区名	日常生活圏域	担当小学校区名
宮原	葛城北、葛城南、葛城東	伏見	あやめ池、西大寺北、伏見一
三宮	大宮、信保川、橋本、大宮寺西	一宮	葛城、葛城二、一宮、葛城三
春日・葛城	淡東、淡南、大宮寺、葛城	登美ヶ丘	登美ヶ丘北、登美ヶ丘南
郡南	郡南、明合、東市、郡南	富雄	富雄、富雄三、三河、富雄南
早城	神辺、石宮、美富、石宮、信保南、早城西、早城	東部	田原、柳太、藤原、葛城、葛城北、六郎、月ヶ原
百西・郡西	長見南、六郎、郡西		

認知症カフェ 17箇所



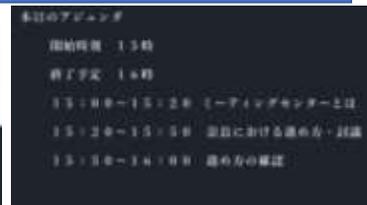
奈良市における主な介護サービス事業所数

- ・特別養護老人ホーム 26施設 / 1,652名
- ・老人保健施設 11施設 / 1,098名
- ・介護医療院 1施設 / 152名
- ・特定施設入居者生活介護 16施設 / 1,009名
- ・グループホーム 38施設 / 591名

最初の働きかけと運営メンバー選定 (2021年度よりモデル事業参画)

- ・働きかけ 自社の居宅介護支援専門員 → 奈良市認知症地域支援推進員
→ 認知症カフェ運営団体 → 地域包括支援センター **基本的に人づてで働きかけ**
- ・運営メンバー
 - 運営主体 ①株式会社リアルステージ 介護保険サービス事業者 (通所介護・訪問介護・高齢者住宅等運営)
 - 参画団体 ②認知症カフェきせき 介護支援専門員、介護福祉士他有志団体
 - ③エミライズケアセンター 居宅介護支援事業所
 - ④登美ヶ丘地域包括支援センター
 - 行政(市役所) ⑤認知症地域支援推進員
- ・実施場所 カフェだんご(登美ヶ丘ショッピングセンター内・認知症カフェきせき実施場所)

新型コロナウイルス蔓延の影響で認知症カフェの活動が停止していたため、**認知症カフェの運営をミーティングセンターに変更、「ミーティングセンターきせき」として認知症カフェを継承する形で事業を開始した。**



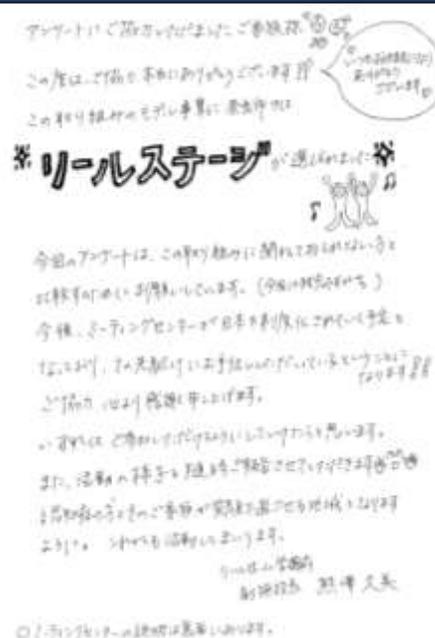
プログラム参加者の告知方法



【プログラム参加者告知方法】

- ① 口コミ
 - 各サービス事業者や包括担当者がMCの一体的支援が必要な本人+家族を割り出し、声掛けをした。
- ② チラシ配布
 - 右のようなチラシを作成し、関連する事業者等に配布した。
- ③ 認知症カフェ参加者
 - 元々、参画団体の一つに認知症カフェを運営していた団体があったため、そちらに通っていた利用者様に声掛けをした。
- ④ 若年性認知症サポートプログラム参加者への声かけ
 - 奈良市認知症地域支援推進員を中心に、若年性認知症サポートプログラムに参加しており、更なる一体的支援が必要と思われる本人・家族に声掛けをした。
- ⑤ 有料老人ホーム入居者
 - 有料老人ホームに入居しているが、本人と家族との関わりが薄く、更に関わりをもった方が良いと思われる本人・家族に声掛けをした。

告知に使用したツール



プログラム内容

		(単位：人)						
参加者		R3/9/10 (金)	R3/10/4 (月)	R3/10/30 (土)	R3/11/20 (土)	R3/12/18 (土)	R4/1/15 (土)	R4/2/19 (土)
支援者	サービス事業者 (在宅系)	5	2	2	2	2	2	
	居宅介護支援事業所	1	1	1	1	1	1	
	認知症カフェ	2	2	4	2	3	2	
	奈良市役所 (認知症地域支援推進員)	1	1	1	1	1	1	
	地域包括支援センター	0	1	1	1	1	1	
	小計	9	7	9	7	8	7	0
	本人	0	0	2	3	2	2	
	家族	0	0	1	2	1	1	
	合計	9	7	12	12	11	10	0
	実施内容	・事前説明会	・事前打ち合わせ	・ゲーム ・MCの主旨説明 次回やりたいことの話合い	・卓球	・クリスマス会 ・ケーキ ・コーヒー	・お正月遊び ・コマ回し ・花札・お手玉 ・笹団子	・おしゃれなカフェに行く ・美味しいケーキを食べる
	実施場所	リールホーム (サ高住)	カフェだんご	カフェだんご	カフェだんご 卓球場	カフェだんご	カフェだんご	カフェだんご



事業の効果と課題

1. 事業の効果

定量効果

・参加者 (のべ人数) : 本人 9名 家族 5名 支援者 31名

定性効果

- ・60代男性で認知症と診断されたが、妻が受容できない方が複数おられ、男性の居場所となり得ることが判明した。
- ・若年性認知症を患っている方の居場所となり、家族の参加によって新しい本人と家族の関わり合いができ得ることが判明した。
- ・本人と家族が話し合いながら内容を決めるため、過去の回想に触れ、本人と家族の関係性に良い影響を与える。

家族の声

- ・母の日頃見せない顔や昔の家族の話が出て、普段と異なる感情が沸き起った。非常にありがたい。

2. 事業の課題

- ・一定のスペースで実施したため、参加できる人数に限りがあった。(実際は支援者の方が多い)
- ・運営側が様々な実施主体より集合したため、各々の捉え方や考え方が異なった。
- ・ミーティングセンターの主旨への理解がばらつき、デイサービスのような運用に陥る恐れがあった。

3. 考察

- ・ファシリテーターの役割が非常に重要であり、支援者側が主旨と進め方の理解を深めることが重要。
- ・ミーティングセンターの運営が慣れてくるまでにある一定の期間が必要となる。
- ・本人、家族と支援者の絶妙なバランスにより、相互に新たな発見が沢山あった。